

有価証券報告書

事業年度 自 平成29年3月1日
(第45期) 至 平成30年2月28日

株式会社アルバイトタイムス

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第45期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	9
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	11
1 【業績等の概要】	11
2 【生産、受注及び販売の状況】	13
3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	14
4 【事業等のリスク】	15
5 【経営上の重要な契約等】	16
6 【研究開発活動】	16
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	17
第3 【設備の状況】	18
1 【設備投資等の概要】	18
2 【主要な設備の状況】	19
3 【設備の新設、除却等の計画】	20
第4 【提出会社の状況】	21
1 【株式等の状況】	21
2 【自己株式の取得等の状況】	25
3 【配当政策】	27
4 【株価の推移】	27
5 【役員の状況】	28
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	30
第5 【経理の状況】	35
1 【連結財務諸表等】	36
2 【財務諸表等】	58
第6 【提出会社の株式事務の概要】	67
第7 【提出会社の参考情報】	68
1 【提出会社の親会社等の情報】	68
2 【その他の参考情報】	68
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	69

監査報告書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年5月25日

【事業年度】 第45期(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

【会社名】 株式会社アルバイトタイムス

【英訳名】 ARBEIT-TIMES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 垣内康晴

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目6番13号 京橋ヨツギビル
(上記は登記上の本店所在地であり、本社業務は下記最寄の
連絡場所において行っております。)

【電話番号】 03-3254-2501

【事務連絡者氏名】 取締役 堀田欣弘

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田富山町5番地1 神田ビジネスキューブ

【電話番号】 03-3254-2501

【事務連絡者氏名】 取締役 堀田欣弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
売上高 (千円)	4,406,074	4,842,124	5,243,661	5,427,399	5,556,572
経常利益 (千円)	880,801	957,271	1,008,423	664,141	543,591
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	831,347	856,810	758,623	469,278	377,289
包括利益 (千円)	837,455	853,863	752,561	469,089	382,030
純資産額 (千円)	4,019,503	4,465,281	4,757,233	4,813,379	4,844,543
総資産額 (千円)	4,768,004	5,159,108	5,412,446	5,538,591	5,576,340
1株当たり純資産額 (円)	137.68	156.71	171.05	177.55	183.49
1株当たり当期純利益 (円)	28.34	29.92	27.14	17.22	14.21
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.3	86.6	87.8	86.9	86.8
自己資本利益率 (%)	21.9	20.2	16.5	9.8	7.8
株価収益率 (倍)	8.6	9.3	8.7	12.7	16.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	929,445	793,407	946,672	665,148	528,670
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△29,169	△86,032	△56,360	△88,141	△15,468
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△397,427	△409,715	△470,330	△413,912	△352,002
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2,968,701	3,266,361	3,687,121	3,849,810	4,009,583
従業員数 (名)	136 [227]	167 [251]	193 [261]	213 [281]	221 [283]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 従業員数は、就業人員数を表示しており、[]内は外書きで臨時従業員の平均雇用人数を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成26年 2 月	平成27年 2 月	平成28年 2 月	平成29年 2 月	平成30年 2 月
売上高 (千円)	3,647,548	3,816,270	3,917,327	4,174,263	4,378,198
経常利益 (千円)	860,413	961,164	1,004,703	552,281	458,580
当期純利益 (千円)	832,304	870,430	769,379	378,522	301,206
資本金 (千円)	455,997	455,997	455,997	455,997	455,997
発行済株式総数 (株)	33,637,249	33,637,249	33,637,249	32,937,249	32,237,249
純資産額 (千円)	3,440,228	3,899,626	4,200,264	4,166,118	4,122,822
総資産額 (千円)	4,078,979	4,435,818	4,684,380	4,738,438	4,680,477
1株当たり純資産額 (円)	117.84	136.86	151.12	153.76	156.20
1株当たり配当額 (円)	8.00	9.00	9.00	7.00	7.00
(内、1株当たり 中間配当額) (円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益 (円)	28.37	30.40	27.53	13.89	11.35
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.3	87.9	89.7	87.9	88.1
自己資本利益率 (%)	25.9	23.7	19.0	9.0	7.3
株価収益率 (倍)	8.6	9.1	8.6	15.8	21.0
配当性向 (%)	28.2	30.1	32.7	50.4	61.7
従業員数 (名)	116 [218]	129 [242]	133 [251]	146 [263]	152 [269]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 従業員数は、就業人員数を表示しており、[]内は外書きで臨時従業員の平均雇用人数を記載しております。

2 【沿革】

昭和48年10月	静岡県静岡市に求人情報誌の発行を主業務として株式会社アルバイトタイムス(資本金1百万円)を設立する。同月『週刊アルバイトタイムス』を創刊する。
昭和54年7月	静岡県浜松市に浜松営業所を開設する。
昭和54年9月	『週刊アルバイトタイムス』静岡西部版を創刊する。
昭和58年10月	『週刊アルバイトタイムス』の誌名を『DOMO(ドモ)』に変更する。
昭和61年2月	社団法人全国求人情報誌協会(平成14年9月社団法人全国求人情報協会に名称変更)に加盟する。
昭和62年6月	静岡県沼津市に沼津営業所を開設する。
昭和62年7月	『DOMO』静岡東部版を創刊する。
平成元年11月	静岡県静岡市に人材派遣業を主業務とした株式会社ソシオ(当社100%出資、資本金12百万円)を設立する。(平成18年1月全株式を売却)
平成5年9月	静岡県静岡市に雑誌の取次を主業務として株式会社リンク(当社100%出資、資本金10百万円、現連結子会社)を設立する。
平成9年9月	神奈川県横浜市に横浜営業所を開設する。
平成9年11月	『DOMO』ヨコハマ版(『DOMO』横浜版)を創刊する。
平成11年9月	『DOMO』渋谷・新宿版を創刊する。
平成13年4月	東京都千代田区に東京支社神田営業所を開設する。
平成13年7月	営業エリアを拡大し、『DOMO』渋谷・新宿版を首都圏版としてリニューアルする。
平成14年12月	日本証券業協会に株式を店頭登録する。
平成15年3月	愛知県名古屋市に営業本部名古屋支社を開設する。
平成15年6月	『DOMO』名古屋版を創刊する。 静岡県内の正社員向け転職情報サイト『ESHIFT(イーシフト)』を開設する。
平成15年8月	首都圏での業容拡大に伴い、東京都中央区に東京本社を開設する。
平成16年3月	大阪府大阪市に大阪事業所を開設する。
平成16年6月	本店所在地を静岡県静岡市から東京都中央区に移転する。 『DOMO』大阪版を創刊する。
平成16年9月	アルバイト・パート向け求人情報サイト『DOMO NET(ドモネット)』を開設する。
平成16年11月	『DOMO』首都圏版を従来の週1回発行から週2回発行へ変更する。
平成16年12月	ジャスダック証券取引所の創設に伴い、日本証券業協会への店頭登録を取り消し、ジャスダック証券取引所へ株式を上場する。 千葉県千葉市に千葉事業所を開設する。
平成17年3月	『DOMO』千葉版(『DOMO』千葉・船橋・習志野版)を創刊する。
平成17年8月	東京都渋谷区に新宿事業所を開設する。
平成17年10月	『DOMO』神戸版を創刊する。
平成18年9月	『maido DOMO(マイド・ドモ)』首都圏版を創刊する。
平成19年9月	『DOMO NET』のリニューアルにより、『ESHIFT』を『DOMO NET』に統合する。
平成20年10月	東京都中央区に正社員専門求人モバイルサイトの販売を主業務とした株式会社NNC(当社100%出資、資本金50百万円)を設立する。(平成22年4月特別清算終了)
平成20年11月	東京都新宿区に株式会社ピーエイと合弁会社モバイル求人株式会社(当社29.2%出資、資本金50百万円)を設立する。なお、モバイル求人株式会社は議決権の所有割合が減少したため、平成24年2月期より持分法適用の範囲から除外しております。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に上場する。
平成22年10月	大阪証券取引所へラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場する。
平成24年8月	正社員の転職・就職サイト『JOB(ジョブ)』を開設する。
平成24年11月	ペット関連情報サービスの開始。フリーペーパー『Wonderful Style(ワンダフルスタイル)』静岡版の創刊、イベント『DOG(ドッグ)！フェスタ』の定期開催を開始する。
平成25年2月	株式会社フリーシェアードジャパン(東京都渋谷区)の株式取得(当社89.5%出資、資本金19百万円)により連結子会社とする。

平成25年5月	静岡県内にてペット関連情報誌『Wonderful Style (ワンダフルスタイル)』定期刊行化を実施。
平成25年7月	株式会社東京証券取引所と株式会社大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、株式会社東京証券取引所JASDAQ (スタンダード) に上場する。
平成26年9月	有限会社名古屋adM (愛知県名古屋市) の株式取得 (当社100%) により連結子会社とする。
平成26年11月	ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市に現地企業 (Shwe Depan International Company Limited) との合弁会社「Mirac Company Limited」を設立。(出資比率: 当社60%、SD社40%) ※正式認可 平成27年3月
平成26年12月	IT業界で働く女性のための転職サイト『ベティ』を開設する。
平成28年1月	IT関連及びデジタルコンテンツの人材養成スクール・大学・大学院を運営するデジタルハリウッド株式会社 (東京都千代田区) と業務提携を行い、『デジタルハリウッドSTUDIO静岡』を静岡県静岡市葵区に開校する。
平成28年7月	株式会社拓人こども未来 (東京都中央区) とFC契約を締結し、「英語で預かる学童保育・プリスクール施設『Kids Duo (キッズデュオ)』浜松中央」を浜松市中区に開校する。
平成28年9月	当社子会社が発行する合同求人チラシ『求人あどむ』の発行主体を当社とし、商品名を『DOMOリーフ』に変更、『DOMO』ブランドの統一を図る。
平成28年9月	西三河エリアに展開開始と同時に『DOMO』名古屋版を『DOMO』あいち版に変更する。
平成28年9月	ペット関連情報誌『Wonderful Style』愛知版を名古屋市内、名古屋市近郊、西三河地域において創刊。
平成28年10月	ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市に支店開設。※正式認可 平成29年3月 ティラワ経済特別区に事務所開設。
平成29年3月	「英語で預かる学童保育・プリスクール施設『Kids Duo』佐鳴台」を浜松市中区に開校する。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社4社によって構成されており、情報提供事業と販促支援事業を基軸として事業を運営しております。

情報提供事業では、当社グループの主力商品である求人情報誌『DOMO（ドモ）』、合同求人チラシ『DOMOリーフ』（発行主体を平成28年9月に当社子会社である株式会社名古屋adM（当社100%出資）から変更、旧商品名『求人あどむ』）の発行及び求人情報サイト『DOMO NET（ドモネット）』、正社員採用に特化した求人情報サイト『JOB（ジョブ）』の運営・販売をしております。また、当社子会社である株式会社フリーシェアードジャパン（当社93.4%出資）が運営・販売する新卒採用に特化した『TSUNORU（ツノル）』、その他に、主力商品で築いた販売網・営業網に資したペット関連情報誌『Wonderful Style（ワンダフルスタイル）』の発行等から構成されています。

販促支援事業では、当社子会社である株式会社リンク（当社100%出資）が行うフリーペーパーの取次等により構成されています。

主な事業活動における各社の位置付けをセグメント別に記載すると次のとおりであります。

(1) 情報提供事業

当社は、求人情報誌、合同求人チラシの発行及び求人情報サイトの運営・販売、SP広告の販売等を行っております。

求人情報誌としては、主にアルバイト・パートタイマー・派遣社員・契約社員といった非正社員向けの無料求人情報誌『DOMO』を発行しており、『DOMO』は、静岡東部・中部・西部版（静岡県内）、あいち版（名古屋市、名古屋市近郊及び西三河地域）を発行しております。また、合同求人チラシ『DOMOリーフ』（名古屋市、名古屋市近郊及び西三河地域）を9版発行しております。

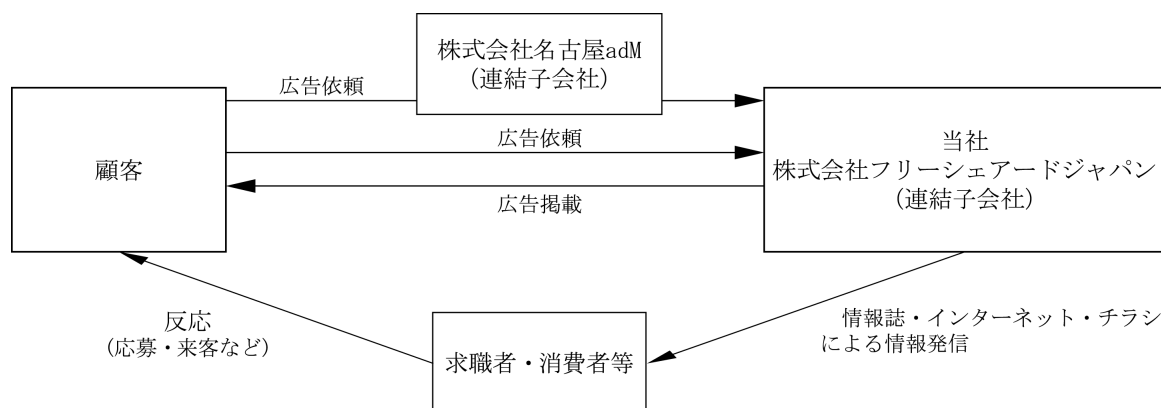
求人情報サイトとしては、非正社員向け求人情報サイト『DOMO NET』、正社員転職・就職サイト『JOB』、当社子会社である株式会社フリーシェアードジャパンが運営している新卒採用に特化した求人情報サイト『TSUNORU』を販売しております。

また、当社子会社である株式会社名古屋adMは、グループ各社の人材商品を主力商品として総合広告代理業を展開しております。

当社グループでは、クライアント（広告主）から出稿された広告を情報誌または新聞折込チラシとして編集・発行・流通させる、あるいはインターネットやモバイル上で発信することにより、その対価として広告収入を得ております。

無料情報誌（フリーペーパー）につきましては、当社が街中に設置する配布用什器（ラック）から読者が無償で入手しております。

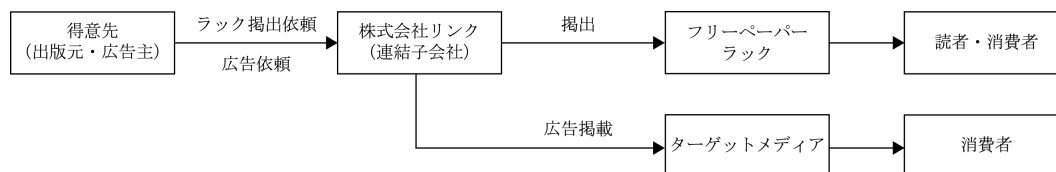
SP広告の販売につきましては、ペットとの共生をテーマとしたペット関連情報誌『Wonderful Style』を発行しております。また、飲食店向け集客向上支持策として、モバイルを活用した顧客獲得とリピートを促進するツール『HANJOMO（ハンジョーモ）』等の企画運営・販売を行っております。



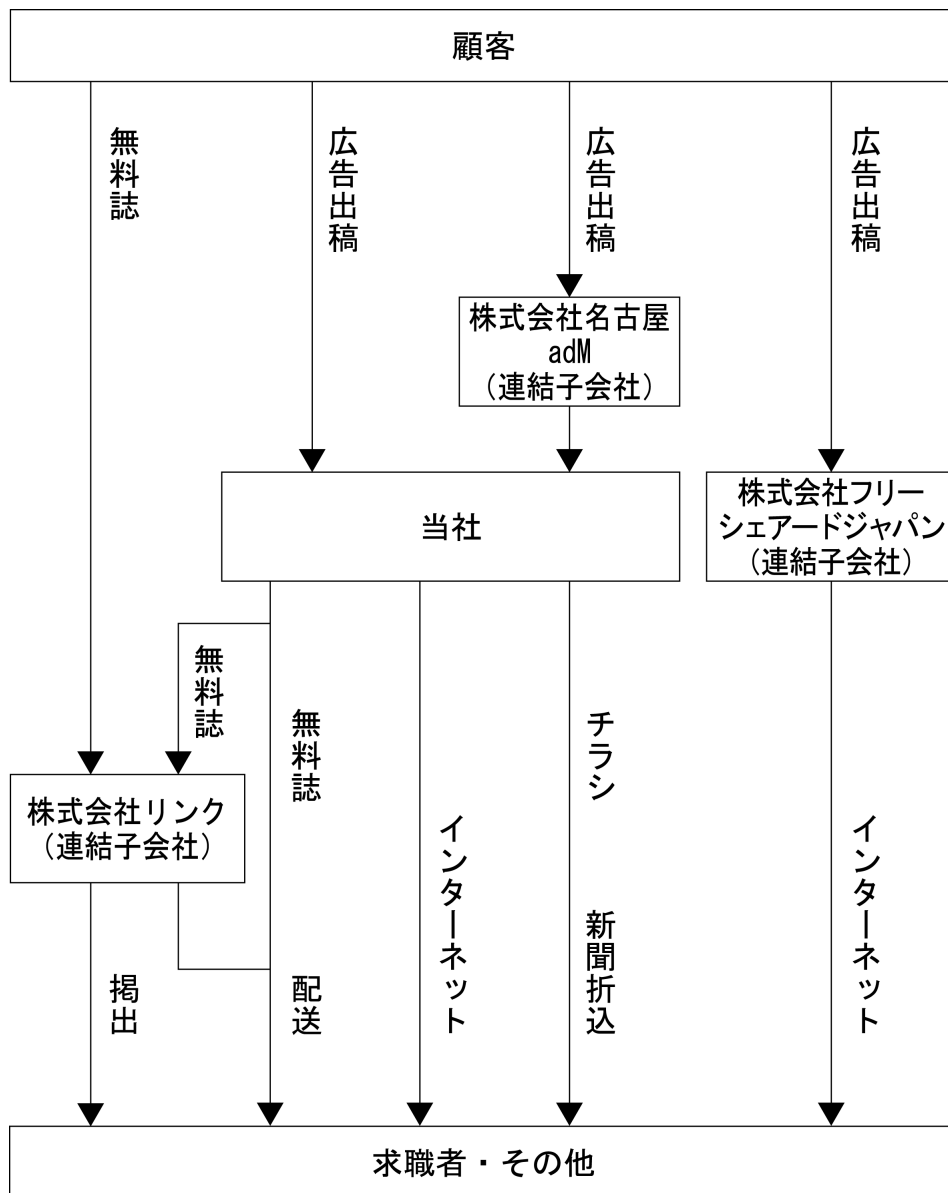
(2) 販促支援事業

当社の創業以来の主力商品である『DOMO』は無料の情報誌であったため、有料誌のように書店などを通じて読者に流通させることはできず、独自に流通網を開拓・維持することが必要でした。当社の連結子会社である株式会社リンクは、その業務で蓄積されたフリーペーパーの流通ノウハウを事業化し、スーパー、駅、ショッピングセンター、大学等集客があるところにラックを設置し、様々な事業者の発行するフリーペーパーやパンフレット等を掲出するサービスを展開しています。

また、クライアント(広告主)からの要望に応じ、主婦・学生にターゲットを絞った狭域かつ高密度型の各種広告宣伝・販促支援活動を提供するダイレクトプロモーションも行っております。



事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社リンク (注1)	東京都中央区	10,000	販促支援事業	100.0	当社の無料誌の掲出、設備の賃貸、役員の兼任3名
(連結子会社) 株式会社フリーシェアード ジャパン	東京都中央区	19,000	情報提供事業	93.4	当社からのソフトウェアの貸出、資金の貸付、役員の兼任4名
(連結子会社) 株式会社名古屋 a d M	愛知県名古屋	8,000	情報提供事業	100.0	資金の貸付、役員の兼任4名
(連結子会社) Mirac Company Limited	ミャンマー連邦 共和国ヤンゴン 市	23,000	情報提供事業	60.0	役員の兼任1名

(注) 1 株式会社リンクについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益状況等	(1) 売上高	1,022百万円
	(2) 経常利益	60百万円
	(3) 当期純利益	39百万円
	(4) 純資産額	824百万円
	(5) 総資産額	943百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
情報提供事業	180 [263]
販促支援事業	22 [6]
全社(共通)	19 [14]
合計	221 [283]

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の[]内は外書きで臨時従業員の年間の平均雇用人数を記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成30年2月28日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
152 [269]	36.7	8.4	4,760,393

セグメントの名称	従業員数(名)
情報提供事業	133 [255]
全社(共通)	19 [14]
合計	152 [269]

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の[]内は外書きで臨時従業員の年間の平均雇用人数を記載しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、地政学的リスクの高まりや米政権政策の影響による世界経済の不確実性等、先行き不透明な状況が続きました。

このような経済環境下、雇用情勢については企業収益の改善が続く中で採用意欲の回復傾向は継続しており、当社の戦略地域である静岡県においては平成30年2月の有効求人倍率が前年同月比0.21ポイント上昇の1.65倍となり、雇用環境は底堅く推移しております。

このような状況において当社グループでは、魅力ある情報サービスを開発・展開し、商品力・販売力を強化することで地域の競争力強化と収益基盤の拡大を図ることに注力しました。

当社主力事業である求人情報事業では、企業の採用意欲が継続している市場環境下、前連結会計年度に実施した愛知県内のエリア拡大に伴う新商品、新サービスの認知促進を図りました。既存商品、既存エリアにおいては、地域競争力の更なる強化を図るため、応募効果促進のための広告販促費の投下等、商品力の強化に努めました。また、属性に応じた求人ニーズに応えるべく、製造業を対象とした『工場のお仕事紹介フェア』や子育てママから就職、転職を希望する女性のための合同企業面談会『シゴトフェア Woman』等のリアルマッチングイベントの開催や介護業界やドライバー募集に特化した『DOMO（ドモ）リーフ』特別号を発行いたしました。さらに、当社求人情報サイト『DOMO NET（ドモネット）』と連携した自社専用の採用サイトの構築・運用をサポートするサービスの販売を当連結会計年度より開始いたしました。

ペット関連事業においては、前連結会計年度に発行した『Wonderful Style（ワンダフルスタイル）』愛知版の認知促進施策として、『DOG（ドッグ）！フェスタ』を静岡県以外で初めて名古屋地域で開催いたしました。

前連結会計年度に開始しました学童保育事業においては、平成29年3月に静岡県浜松市に第2号校として「英語で預かる学童保育・プリスクール施設『Kids Duo（キッズデュオ）』佐鳴台」を開校いたしました。

以上の結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高は5,556百万円（前連結会計年度比2.4%増）となりました。売上原価は、1,735百万円（同9.0%増）、販売費及び一般管理費は、3,293百万円（同4.1%増）となりました。営業利益は、商品力強化のための広告販促費、前連結会計年度に拡大・投入した新エリア、新商品に係る直接費用等が増加したため527百万円（同21.3%減）となりました。経常利益は543百万円（同18.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は377百万円（同19.6%減）となりました。

セグメント別の業績（セグメント間の内部取引消去前）を示すと、次のとおりであります。

（情報提供事業）

情報提供事業では、『DOMO（ドモ）』静岡県内版の売上は減少したものの、前連結会計年度に愛知県内において販売エリアを拡大した無料求人誌『DOMO』あいち版や新たに3版を発行した『DOMOリーフ』の販売が堅調に推移し、ネット商品である正社員向け転職・就職サイト『JOB（ジョブ）』・求人情報サイト『DOMO NET』の販売も増加したため、売上高は4,586百万円（前連結会計年度比2.8%増）、セグメント利益は1,040百万円（同13.2%減）となりました。

（販促支援事業）

販促支援事業では、主たる売上であるフリーペーパーの取次において首都圏地域での販売量の増加や子育て主婦や学生に直接アプローチするダイレクトプロモーションの販売が伸張し、販促支援事業における売上高は1,022百万円（前連結会計年度比0.8%増）、セグメント利益は143百万円（同4.0%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、4,009百万円（前連結会計年度末比159百万円増）となりました。

(a) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、528百万円（前連結会計年度は665百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が529百万円、減価償却費が43百万円となった一方で、法人税等の支払額が104百万円等となったためです。

(b) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、15百万円（同88百万円の支出）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出が11百万円、有形固定資産の取得による支出が10百万円等となったためです。

(c) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、352百万円（同413百万円の支出）となりました。これは、配当金の支払額が188百万円、自己株式の取得による支出が163百万円となったためです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループの主体である求人情報誌の発行等は、提供するサービスの性格上、生産実績を把握することが困難であるため、生産実績の記載を省略しております。なお、当社グループは、業務上、求人情報誌等の印刷は、印刷会社に外注しており、印刷費用は次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
情報誌の印刷費相当額	657,024	112.0

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 上記のうち、最近2連結会計年度における主な相手先別の取扱額及び総取扱額に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)		当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
大日本印刷株式会社	586,637	100.0	591,440	90.0
神田印刷工業株式会社	-	-	65,584	10.0

(2) 受注実績

当社グループの主体である求人情報誌の発行等は、提供するサービスの性格上、受注実績を把握することが困難であるため、受注実績の記載を省略しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)		前年同期比(%)
	金額(千円)	割合(%)	
情報提供事業	4,586,675	82.5	102.8
販促支援事業	969,896	17.5	100.3
合計	5,556,572	100.0	102.4

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの事業を取り巻く環境は、企業収益の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、米国の政策動向、中国をはじめとした新興国経済の減速懸念、東アジア情勢の緊迫化といった地政学的リスクへの警戒感が強まる等、世界経済の下振れリスクもあり、先行き不透明な状況が続いております。雇用環境におきましては、企業収益の改善や日本国内の労働人口構造変化に伴う労働力不足により、企業の採用意欲は持続しております。一方で、紙媒体からWEB媒体へのメディアシフト、競合商品・サービスの多様化や専門化に伴う更なる競争の激化、政府が中心となり取り組んでいる一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革や生産性向上のための諸施策等、事業に影響し得る動きにつきましては、注視していく必要があります。

そのような事業環境において、当社グループでは、グループ資産を最大限に活用するだけでなく、アライアンスなど他社リソースも有効に活用しながら、展開地域やターゲット属性毎のニーズをいち早く捉え、それぞれの課題を解決する新たな商品・サービスを創出していくことで、企業価値の向上に努めていきたいと考えております。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避、発生した場合の対応に努める方針であります。当社の経営状況についての判断は、以下の事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。また以下の記載は当社グループの事業展開上のリスクを全て網羅したものではありません。

(1) 事業環境について

当社グループは、主に求人情報の提供を主力事業としているため、景気動向や法改正といった外部環境の変化により、当社グループの経営成績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 競合企業の戦略への対応

当社グループは、内部留保の充実や「持たざる経営」による健全な財務体質の維持に加え、機動的な経営判断を可能にする組織編成により、競合企業の戦略への対応力向上に努めています。しかしながら、現時点では企業体力に大きな開きがあるため、競合企業の戦略への対応の成否によっては、当社グループの経営成績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) システムの誤作動・機能停止に関するリスク

当社グループは、インターネット媒体を活用した事業を展開しております。従いまして、予測不可能な大規模自然災害、コンピューターウィルス、テロといった多くの事象によって引き起こされる災害、停電及び同様の混乱による影響により、当社グループの利用するサーバーの作動不能、または従業員による誤った操作などの事由により、システム障害が発生した場合、業務活動が部分的に停止する可能性があります。このような場合、当社グループの経営成績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 求人情報媒体事業への依存度の高さ

事業別売上高

(金額：百万円) (構成比：%)	平成30年2月期実績		平成29年2月期実績		平成28年2月期実績	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
連結売上高	5,556	100.0	5,427	100.0	5,243	100.0
求人情報紙媒体	3,022	54.4	3,195	58.9	3,244	61.9
求人情報サイト	1,143	20.6	1,017	18.8	855	16.3
FP取次	969	17.5	967	17.8	979	18.7
その他	420	7.6	246	4.5	164	3.1

(注) 求人情報紙媒体：『DOMO』、『DOMOリーフ』

求人情報サイト：『DOMO NET』、『JOB』、『TSUNORU (ツノル)』

FP取次：フリーペーパー取次・ダイレクトプロモーション

当社グループの求人情報媒体事業は、売上総利益率が高い一方で、販売費及び一般管理費の対売上高比率が高いことから、広告収入の増加局面においては利益が大きく増加する一方で、減少局面においては人件費等の固定費負担を吸収しきれずに利益が大きく減少する特徴があります。

中長期的には、無料求人媒体事業の強化を通じて収益拡大を図りつつ、新規事業の開発により収益基盤の拡充を目指す方針ですが、当面は求人情報媒体事業への収益の依存度が高くなるため、その業績によっては、当社グループの経営成績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 個人情報を始めとする情報セキュリティ対策

平成17年4月1日より「個人情報保護に関する法律（個人情報保護法）」が全面的に施行され、当社グループも平成16年2月期より、個人情報を含めた機密情報のセキュリティ対策プロジェクトチームを発足し準備を進めてきました。当社グループが収集する代表的な個人情報としては、求人情報サイトにおける登録ユーザーの個人情報、『DOMO』などにおけるアンケート返信者の個人情報、広告主である顧客の個人情報、当社株主の個人情報、当社グループ従業員の個人情報などが存在します。当プロジェクトチームはプライバシーポリシーの策定、システムのチェック・改修、従業員への啓蒙など様々な準備を進め、今後も継続的に実施していく方針ですが、その対応の成否によっては当社グループの経営成績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 大規模自然災害、事故等について

当社グループは、自然災害等によってフリーペーパーの発行やインターネット媒体の運営に不都合が生じた場合には、当社グループのサービスが通常通りの運営が不可能になる可能性があります。このような場合、当社グループの経営成績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項については、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。重要な会計方針につきましては、本報告書「第一部 企業情報 第5 経理の状況」に記載しております。連結財務諸表の作成にあたり、貸倒引当金、賞与引当金等の各引当金の計上、繰延税金資産の回収可能性の判断等につきましては、過去の実績や他の合理的な方法により見積りを行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末の財政状態は、総資産が5,576百万円（前連結会計年度末比0.7%増）、負債が731百万円（同0.9%増）、純資産が4,844百万円（同0.6%増）となりました。また、自己資本比率は86.8%となり、1株当たり純資産は183.49円となりました。

資産の部では、流動資産が4,722百万円（同1.9%増）となりました。内訳として、現金及び預金が4,009百万円（同4.2%増）、売掛金が590百万円（同5.3%減）等となったためです。

固定資産は854百万円（同5.3%減）となりました。内訳として、有形固定資産が606百万円（同2.3%減）、無形固定資産が84百万円（同20.5%減）、投資その他の資産が162百万円（同6.8%減）となったためです。

負債は731百万円（同0.9%増）となりました。内訳として、未払法人税等が79百万円（同48.9%増）、未払金が433百万円（同4.8%減）、賞与引当金が60百万円（同28.1%減）等となったためです。

純資産は4,844百万円（同0.6%増）となりました。これは、親会社株主に帰属する当期純利益の計上、剰余金の配当及び自己株式の消却により利益剰余金が4,913百万円（同1.2%増）、自己株式の取得及び消却により自己株式が1,076百万円（前連結会計年度末は1,043百万円）となったためです。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の経営成績の分析については、「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (1)業績」の記載をご参照ください。

(4) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (2)キャッシュ・フローの状況」の記載をご参照ください。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、商品・サービスの品質の充実・強化を目的とした投資を行っております。

当連結会計年度の当社グループの設備投資総額は29,287千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

なお、設備投資総額には有形固定資産のほか、無形固定資産、長期前払費用及び敷金及び保証金を含めて記載しております。

(1) 情報提供事業

当連結会計年度は、Kids Duo（キッズデュオ）浜松佐鳴台の開校に伴う投資を中心とする総額18,564千円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

(2) 販促支援事業

当連結会計年度は、株式会社リンクの販売管理システムの開発に係る投資を中心とする総額6,322千円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

(3) 全社共通

当連結会計年度は、提出会社において、ソフトウェア導入に関わる総額4,400千円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）における、平成30年2月28日現在の各事業所の設備、投下資本並びに従業員の配置状況は次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (㎡)	ソフト ウェア	その他	合計	
東京本社 (東京都千代田区)	情報提供事業 全社	管理設備 販売設備	8,724	—	27,722	59,047	95,494	24 [6]
沼津事業所 (静岡県沼津市)	情報提供事業	販売設備	51,483	187,219 (994.57)	—	781	239,483	15 [44]
静岡事業所 (静岡県静岡市駿 河区)	情報提供事業	販売設備 制作設備	6,146	—	—	1,592	7,738	37 [83]
栗原事業所 (静岡県静岡市駿 河区)	情報提供事業 全社	管理設備	16,991	115,321 (628.20)	—	225	132,538	3 [32]
浜松事業所 (静岡県浜松市東 区)	情報提供事業	販売設備	43,316	141,934 (979.87)	—	323	185,573	22 [34]

(2) 国内子会社

平成30年2月28日現在

会社名、事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
			ソフトウェア	その他	合計	
株式会社リンク 本社 (東京都中央区)	販促支援事業	販売設備 管理設備	46,328	21,781	68,110	10 [2]

- (注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。
 2 その他の中には工具、器具及び備品、車両運搬具、敷金及び保証金等が含まれております。
 3 従業員数は、就業人員数を表示しており、[]内は外書きで臨時従業員数を記載しております。
 4 提出会社及び国内子会社の一部の設備は、当社グループ外から賃借しているものであり、賃借料は、提出会社105,504千円、国内子会社50,877千円であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

平成30年2月28日現在において、重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	136,700,000
計	136,700,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年5月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,237,249	32,237,249	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	32,237,249	32,237,249	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年7月15日 (注) 1	△700,000	32,937,249	—	455,997	—	540,425
平成29年7月14日 (注) 2	△700,000	32,237,249	—	455,997	—	540,425

(注) 1 平成28年7月15日付自己株式消却

(注) 2 平成29年7月14日付自己株式消却

(6) 【所有者別状況】

平成30年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	4	20	40	19	7	9,519	9,609	—
所有株式数 (単元)	—	9,440	6,268	20,687	6,224	232	279,361	322,212	16,049
所有株式数 の割合(%)	—	2.93	1.95	6.42	1.93	0.07	86.70	100.00	—

(注) 1 自己株式5,844,057株は、「個人その他」に58,440単元、「単元未満株式の状況」に57株含まれております。

2 上記「その他の法人」には証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成30年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
満井 義政	静岡県静岡市駿河区	10,027	31.10
公益財団法人就職支援財団	静岡県静岡市葵区御幸町11-30	1,300	4.03
株式会社新生銀行	東京都中央区日本橋室町2-4-3	454	1.40
株式会社静岡銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社)	静岡県静岡市葵区呉服町1-10 (東京都港区浜松町2-11-3)	432	1.34
垣内 康晴	東京都江東区	383	1.19
堀田 欣弘	神奈川県横浜市青葉区	294	0.91
静岡キャピタル株式会社	静岡県静岡市清水区草薙北2-1	252	0.78
株式会社ジャーナルネット	群馬県高崎市大類町1033	216	0.67
株式会社アドバンススタッフ	群馬県高崎市緑町3-7-7	212	0.65
アルバイトタイムス従業員持株会	静岡県静岡市駿河区栗原18-25	204	0.63
計	—	13,777	42.73

(注) 上記のほか当社所有の自己株式5,844,057株(18.12%)があります。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成30年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,844,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,377,200	263,772	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 16,049	—	—
発行済株式総数	32,237,249	—	—
総株主の議決権	—	263,772	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アルバイトタイムス	東京都中央区京橋 2-6-13	5,844,000	—	5,844,000	18.12
計	—	5,844,000	—	5,844,000	18.12

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法155条7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年4月11日)での決議状況 (取得期間平成29年4月12日～平成29年6月30日)	700,000	200,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	700,000	161,213,800
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	38,786,200
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	19.39
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	—	19.39

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1	245
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	△700,000	128,883,124	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(—)	—	—	—	—
保有自己株式数	5,844,057	—	5,844,057	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取及び買増請求による売渡による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社グループは、中長期的な企業の競争力の強化と成長力の維持を可能とする投資を最優先事項と捉えています。そのため、内部留保金並びにフリー・キャッシュ・フローにつきましては、新規事業向けを中心とした投資に充当し、グループとしてのさらなる成長を図ります。

一方で、株主の皆様に対してはその投資によって得られた成果、つまり連結業績に連動した配当を行っていくこととし、具体的には、連結当期純利益の30%を目処に配当を行う方針です。

当社の剰余金の配当は、期末配当を基本的な方針としております。配当の決定機関は中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

このような考えに基づき、当事業年度の剰余金の配当につきましては、1株当たり7円としております。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年5月24日 定時株主総会決議	184,752,344	7

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
最高(円)	308	355	327	251	288
最低(円)	162	209	221	197	210

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) におけるものであります。

(2) 【最近6箇月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年9月	10月	11月	12月	平成30年1月	2月
最高(円)	229	255	288	279	271	267
最低(円)	217	224	237	242	257	226

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性 7 名 女性 0 名 (役員のうち女性の比率 0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	—	垣内 康 晴	昭和38年7月9日生	昭和61年3月 当社入社 平成12年3月 当社管理部部長 平成13年3月 当社経理部部長 平成15年12月 当社管理本部長 平成16年5月 当社取締役管理本部長 平成18年3月 当社取締役管理本部・人事本部管掌 平成19年2月 当社代表取締役社長 (現任)	(注) 3	383
取締役	—	堀田 欣 弘	昭和40年1月28日生	平成2年4月 当社入社 平成12年7月 当社東京支社長 平成13年5月 当社取締役 平成14年3月 当社取締役東京本部長 平成14年6月 当社取締役東京本部長兼静岡本部長 平成15年3月 当社取締役営業本部長 平成16年5月 株式会社リンク 代表取締役社長 (現任) 平成19年3月 当社管理本部管掌 平成19年5月 当社取締役管理本部管掌 平成21年5月 当社取締役 (現任)	(注) 3	294
取締役	—	竹内 一 浩	昭和39年7月14日生	昭和59年10月 当社入社 平成19年3月 当社営業本部長 平成21年3月 当社DOMO事業本部長 平成23年3月 当社DOMO事業部長兼経営企画部長 平成24年3月 当社事業統括本部長 平成24年5月 当社取締役 (現任) 平成25年4月 株式会社フリーシェアーDJAPAN 代表取締役 (現任)	(注) 3	87
取締役	—	大浦 善 光	昭和29年7月8日生	昭和52年4月 野村証券株式会社入社 平成15年6月 同社常務執行役 兼野村ホールディングス株式会社 執行役 平成21年3月 株式会社ジャフコ常務執行役員 平成25年4月 同社専務取締役 平成26年8月 株式会社ウィズバリュー代表取締 役 (現任) 平成27年5月 当社取締役就任 (現任) 平成27年6月 株式会社MS-Japan 社外監 査役 平成28年1月 パーク24株式会社社外取締役 (現 任) 平成28年6月 株式会社MS-Japan 監査等 委員 (社外取締役) (現任) 平成29年9月 株式会社キャンディル社外取締 役 (現任)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)	—	杉山 正人	昭和39年2月18日生	昭和63年1月 平成19年3月 平成21年9月 平成22年1月 平成26年3月 平成29年5月	当社入社 当社管理本部システム部部长 当社管理本部総務部部长 当社管理部部长 当社内部監査室室長 当社常勤監査役(現任)	(注) 4	89
監査役	—	清水 久員	昭和38年3月11日生	昭和60年10月 平成元年2月 平成3年8月 平成5年8月 平成10年1月 平成10年5月 平成16年5月	監査法人朝日新和会計社(現有限責任あずさ監査法人)入社 公認会計士登録 株式会社社長銀総合研究所入社 株式会社社長銀総研コンサルティング出向 清水公認会計士事務所所長(現任) 税理士登録 当社監査役(現任)	(注) 5	—
監査役	—	柴田 亮	昭和48年9月21日生	平成18年8月 平成20年6月 平成22年1月 平成23年11月 平成24年4月 平成27年5月	新日本監査法人(現 新日本有限責任監査法人)入社 公認会計士登録 株式会社アタックス入社 柴田亮公認会計士事務所所長(現任) 東京さくら監査法人社員(現任) 税理士登録 当社監査役(現任)	(注) 6	—
計							854

- (注) 1 取締役大浦善光氏は、社外取締役であります。
- 2 監査役清水久員氏及び柴田亮氏は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成30年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役杉山正人氏の任期は、平成29年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役清水久員氏の任期は、平成28年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役柴田亮氏の任期は、平成27年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
白井 輝次	昭和23年1月12日生	昭和52年8月 昭和52年9月 平成2年12月 平成16年4月 平成18年5月 平成30年3月	税理士登録 白井会計事務所所長 TKC東京パートナー会計事務所副所長 コンパッション税理士法人入社 コンパッション税理士法人代表社員 コンパッション税理士法人日本橋事務所所長(現任)	(注) 1	—

- (注) 1 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

ア. 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

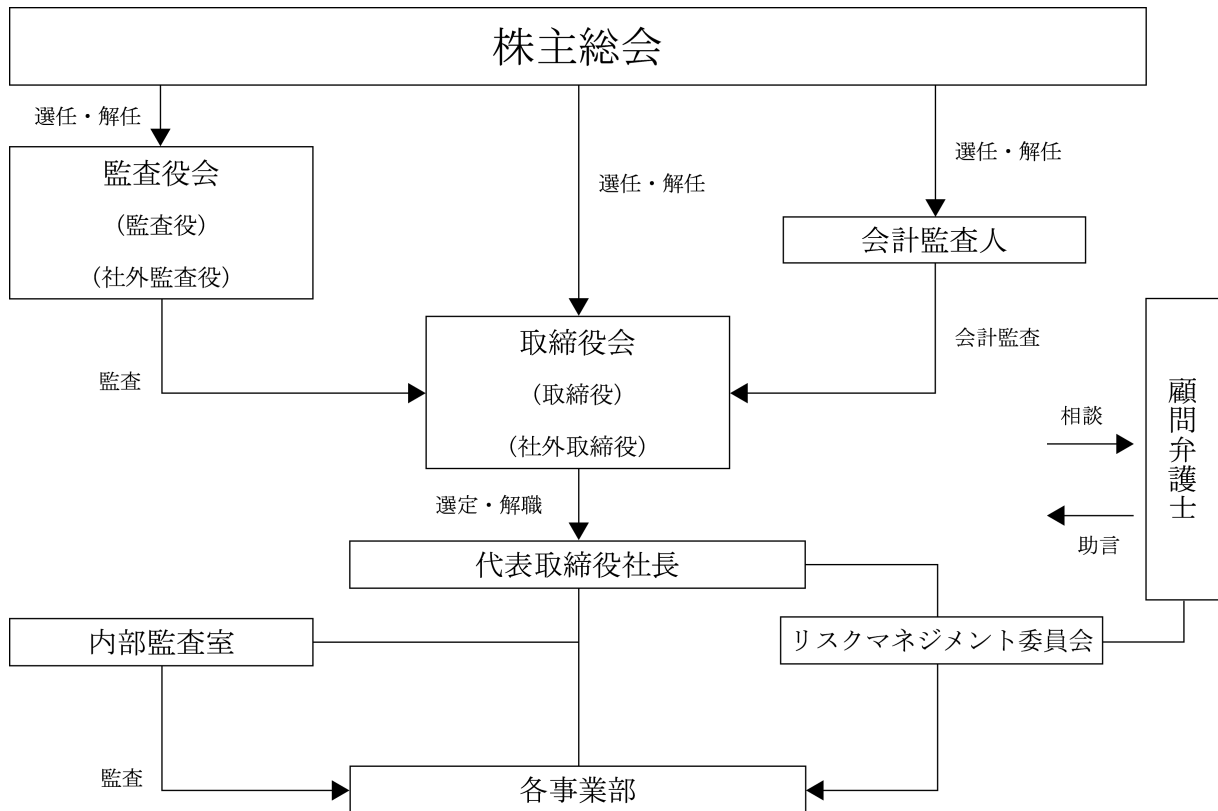
当社の取締役会は、社外取締役1名を含む取締役4名で構成されております。取締役会は原則として月1回開催し、業務執行に係る重要な意思決定が迅速に行われる体制としております。

当社の取締役会は単なる決裁機能としてではなく、会社の業務執行における意思決定機能を有し、各取締役による代表取締役の職務執行の監督を含む相互の牽制機能の強化が図れる体制としております。

また、当社は監査役会設置会社であり、監査役会は社外監査役2名を含む監査役3名で構成されております。常勤監査役は1名であり、非常勤の2名が社外監査役であります。監査役会は、原則として月1回開催し、常時取締役の業務執行状況の監査を行っております。

監査役は取締役会及びその他会社の重要な会議に出席するほか、定期的に社内資料の提出を受けることなどによって、会社の適法性の監査に限定せず、妥当性の監査まで実施する体制を採用しています。

イ. 会社の機関・内部統制の関係図



ウ. 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムについては、内部監査室1名が、業務活動における妥当性や有効性、及び社内規程類の遵守状況等について内部監査を実施することにより、業務の改善及び内部統制の整備・向上に取り組んでおります。内部監査室、監査役会及び会計監査人は、監査の実施状況及び結果の確認等、必要に応じて情報交換を行い、相互に連携を取りながら監査の実効性の向上を目指しております。加えて、担当取締役をチーフリスクオフィサー(CRO)としたリスクマネジメント委員会の開催などにより、内部統制の向上に努めております。当社の顧問弁護士は、当社リスクマネジメント委員会のメンバーとして、また社内ホットライン制度の通報先の一つとして、当社経営に関与しています。なお、法律上の判断を必要とするときは適時アドバイスを受けています。

エ. リスク管理体制の整備の状況

機密情報管理及び個人情報保護を目的に、情報管理関連諸規程や関連書類の改定・整備を行い実践しております。個人情報保護については、万が一、情報漏洩事故が発生した場合に備え、個人情報漏洩事故対応マニュアル及び危機管理広報マニュアルを策定し、情報管理責任者の情報漏洩事故発生直後の対応方法等報告フローについて定める等、情報管理体制についてのリスクマネジメントを実践しております。

さらに、規程改定に係る社内説明会や新入社員を対象としたコンプライアンス及びリスクマネジメント研修等を実施しております。

オ. 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、当社子会社における業務の適正と効率を確保するため、当社グループ基本理念、統合リスクマネジメント基本方針及びコンプライアンス基本方針等を共有し、当社及びグループ各社間で内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われる体制を整備しております。

当社による当社子会社に対する経営管理については、関係会社管理規程に基づき行われております。また、当社の内部監査部門は、当社子会社の内部監査を実施し、当社子会社の業務における内部統制の有効性及び妥当性を確保しております。内部監査部門は、当社子会社において、コンプライアンス上又は経営管理上問題ありと判断した場合には、リスクマネジメント委員会、代表取締役社長、取締役会及び監査役会に報告し、必要に応じて当社から当社子会社に対して問題解決の必要措置又は改善策の指導、実施に関するアドバイス等を行うものとしております。

カ. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。

キ. 責任限定契約の内容

当社は、会社法第427条第1項に基づき、取締役（業務執行取締役等である者を除く）及び監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役（業務執行取締役等である者を除く）及び監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

② 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査体制は、内部監査部門として内部監査室1名を設置し、会社法及び金融商品取引法上の内部統制システムの整備運用から改善まで、並びに業務の遂行が、各種法令や、当社グループの各種規程類及び経営計画などに準拠して実施されているか、効率的、効果的に行われているかなどについて調査及びチェックを行い、指導改善に向けた内部監査を行っております。

監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名の計3名体制をとっております。各監査役は、監査役会が定め

た監査役監査の基準、監査計画及び職務分担に基づき、業務執行の適法性について監査しております。

内部監査室、監査役会及び会計監査人は、監査の実施状況及び結果の確認等、必要に応じて情報交換を行い、相互に連携を取りながら監査の実効性の向上を目指しております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であり、社外監査役は2名であります。

社外取締役大浦善光氏は、事業経営者として、また、投資に関するコンサルタントとしての長年の経験と幅広い見識を客観的かつ公正な立場から当社の経営に反映していただけるものと判断しております。

なお、社外取締役は、取締役会等を通じて内部監査室、監査役会及び会計監査人の活動状況についての報告を受け、客観的な視点から、当社経営に対する有益な発言を行うなど、経営のチェック機能を高め、より透明性の高い経営監督体制の整備に尽力しております。

同氏と当社との間には、人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役清水久員氏および柴田亮氏の両氏は、ともに公認会計士および税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者であり、その経歴等から社外監査役として当社の監査に有用な意見をいただけるものと判断しております。

両氏と当社との間には、人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

また、社外取締役1名及び社外監査役2名の計3名は、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として選任しております。

なお、当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、その選任に際しては、東京証券取引所の定める独立役員の独立性に関する判断基準を参考としております。

④ 役員の報酬等

ア. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	84	84	—	—	—	3
監査役 (社外監査役を除く。)	8	8	—	—	—	2
社外役員	10	10	—	—	—	3

イ. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

ウ. 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

エ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社の取締役及び監査役の報酬につきましては、株主総会において承認された報酬限度額の範囲内において、決定しております。

各取締役の報酬額は、取締役会より一任をされた代表取締役が、当社の定める一定の基準及び役割や貢献度合いから決定し、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

⑤ 株式の保有状況

ア. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式
該当事項はありません。

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
該当事項はありません。

ウ. 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

当社の会計監査人については、有限責任監査法人トーマツに監査を依頼し、監査契約を締結しています。当社の会計監査人は第三者としての立場から当社経営に関する監査、特に会計監査を中心にコーポレート・ガバナンスの強化に関与しています。業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人および継続関与年数は以下の通りです。

(公認会計士の氏名)	(所属監査法人名)	(継続関与年数)
指定有限責任社員業務執行社員 早稲田宏	有限責任監査法人トーマツ	継続年数 6年
指定有限責任社員業務執行社員 山崎光隆	有限責任監査法人トーマツ	継続年数 3年

また、監査業務に係る補助者は、公認会計士 5名、その他 7名であります。

⑦ 取締役会で決議できる株主総会決議事項

ア. 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応した機動的な経営を可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

イ. 中間配当

当社は、取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑧ 取締役の定数

取締役の定数につきましては、8名以内とする旨を定款で定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任議案は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及びその選任決議は累積投票によらない旨定款で定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	20	—	20	—
連結子会社	—	—	—	—
計	20	—	20	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はございませんが、監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年3月1日から平成30年2月28日まで)及び事業年度(平成29年3月1日から平成30年2月28日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準の内容を適切に把握し、変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、監査法人等の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 2月28日)	当連結会計年度 (平成30年 2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,849,810	4,009,583
売掛金	623,092	590,206
原材料及び貯蔵品	11,686	11,388
繰延税金資産	72,733	26,638
その他	79,026	84,555
貸倒引当金	△300	△307
流動資産合計	4,636,049	4,722,065
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	373,285	377,620
減価償却累計額	△215,414	△225,645
建物及び構築物（純額）	157,871	151,975
土地	444,475	444,475
建設仮勘定	3,676	-
その他	143,374	140,521
減価償却累計額	△128,376	△130,451
その他（純額）	14,998	10,070
有形固定資産合計	621,020	606,520
無形固定資産		
ソフトウェア	96,290	74,384
その他	10,606	10,606
無形固定資産合計	106,897	84,990
投資その他の資産		
投資有価証券	87,746	82,930
繰延税金資産	193	1,482
その他	87,934	79,898
貸倒引当金	△1,250	△1,547
投資その他の資産合計	174,624	162,763
固定資産合計	902,541	854,274
資産合計	5,538,591	5,576,340

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
負債の部		
流動負債		
未払金	455,272	433,508
未払法人税等	53,103	79,077
賞与引当金	84,178	60,546
その他	131,360	158,664
流動負債合計	723,914	731,796
固定負債		
繰延税金負債	1,296	-
固定負債合計	1,296	-
負債合計	725,211	731,796
純資産の部		
株主資本		
資本金	455,997	455,997
資本剰余金	540,425	540,425
利益剰余金	4,854,517	4,913,272
自己株式	△1,043,669	△1,076,000
株主資本合計	4,807,271	4,833,694
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,502	10,866
為替換算調整勘定	△1,362	△1,514
その他の包括利益累計額合計	3,139	9,352
非支配株主持分	2,968	1,496
純資産合計	4,813,379	4,844,543
負債純資産合計	5,538,591	5,576,340

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月 28日)
売上高	5,427,399	5,556,572
売上原価	1,591,696	1,735,045
売上総利益	3,835,703	3,821,526
販売費及び一般管理費	※1 3,165,658	※1 3,293,999
営業利益	670,044	527,527
営業外収益		
受取利息	192	219
受取賃貸料	840	840
投資有価証券売却益	-	6,319
投資事業組合運用益	-	11,525
為替差益	196	-
その他	3,057	2,964
営業外収益合計	4,285	21,867
営業外費用		
自己株式取得費用	1,906	1,904
投資事業組合運用損	4,177	-
違約金	755	1,258
為替差損	-	1,299
その他	3,348	1,339
営業外費用合計	10,189	5,803
経常利益	664,141	543,591
特別損失		
減損損失	-	※2 14,198
特別損失合計	-	14,198
税金等調整前当期純利益	664,141	529,393
法人税、住民税及び事業税	96,191	112,690
法人税等調整額	98,534	40,783
法人税等合計	194,725	153,474
当期純利益	469,415	375,918
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	137	△1,370
親会社株主に帰属する当期純利益	469,278	377,289

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月 28日)
当期純利益	469,415	375,918
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	274	6,364
為替換算調整勘定	△600	△253
その他の包括利益合計	※1 △326	※1 6,111
包括利益	469,089	382,030
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	469,192	383,502
非支配株主に係る包括利益	△103	△1,472

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株 主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算調 整勘定	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	455,997	540,425	4,760,388	△1,005,875	4,750,936	4,227	△1,001	3,225	3,072	4,757,233
当期変動額										
剰余金の配当	—	—	△250,138	—	△250,138	—	—	—	—	△250,138
親会社株主に帰属す る当期純利益	—	—	469,278	—	469,278	—	—	—	—	469,278
自己株式の取得	—	—	—	△162,805	△162,805	—	—	—	—	△162,805
自己株式の消却	—	—	△125,010	125,010	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	—	—	—	—	—	274	△360	△86	△103	△189
当期変動額合計	—	—	94,129	△37,794	56,334	274	△360	△86	△103	56,145
当期末残高	455,997	540,425	4,854,517	△1,043,669	4,807,271	4,502	△1,362	3,139	2,968	4,813,379

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株 主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算調 整勘定	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	455,997	540,425	4,854,517	△1,043,669	4,807,271	4,502	△1,362	3,139	2,968	4,813,379
当期変動額										
剰余金の配当	—	—	△189,652	—	△189,652	—	—	—	—	△189,652
親会社株主に帰属す る当期純利益	—	—	377,289	—	377,289	—	—	—	—	377,289
自己株式の取得	—	—	—	△161,214	△161,214	—	—	—	—	△161,214
自己株式の消却	—	—	△128,883	128,883	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	—	—	—	—	—	6,364	△151	6,212	△1,472	4,740
当期変動額合計	—	—	58,754	△32,330	26,423	6,364	△151	6,212	△1,472	31,163
当期末残高	455,997	540,425	4,913,272	△1,076,000	4,833,694	10,866	△1,514	9,352	1,496	4,844,543

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	664,141	529,393
減価償却費	61,403	43,906
減損損失	—	14,198
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,233	304
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4,806	△23,631
受取利息及び受取配当金	△194	△219
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△6,319
投資事業組合運用損益 (△は益)	4,177	△11,525
売上債権の増減額 (△は増加)	△12,212	32,116
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,447	297
未払債務の増減額 (△は減少)	95,080	△19,964
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△41,390	15,086
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△64	—
その他	18,143	35,109
小計	779,598	608,753
利息及び配当金の受取額	196	24,619
法人税等の支払額	△114,646	△104,702
営業活動によるキャッシュ・フロー	665,148	528,670
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△25,971	△10,839
有形固定資産の除却による支出	△3,752	—
無形固定資産の取得による支出	△55,686	△11,718
投資有価証券の売却による収入	—	7,350
敷金及び保証金の差入による支出	△12,070	△333
敷金及び保証金の回収による収入	9,339	72
投資活動によるキャッシュ・フロー	△88,141	△15,468
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△164,857	△163,271
配当金の支払額	△249,055	△188,731
財務活動によるキャッシュ・フロー	△413,912	△352,002
現金及び現金同等物に係る換算差額	△404	△1,427
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	162,689	159,772
現金及び現金同等物の期首残高	3,687,121	3,849,810
現金及び現金同等物の期末残高	※1 3,849,810	※1 4,009,583

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数4社

連結子会社の名称

㈱リンク

㈱フリーシェアードジャパン

㈱名古屋adM

Mirac Company Limited(ミャンマー連邦共和国)

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Mirac Company Limited(ミャンマー連邦共和国)の決算日は3月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、平成29年12月31日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

3 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券 時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、出資にかかわる投資事業組合については、持分相当額の損益を投資有価証券を増減する方法で投資事業組合運用損益として計上しております。また、投資事業組合が保有するその他有価証券の評価損益については、投資有価証券を増減する方法で純資産の部にその他有価証券評価差額金を計上しております。

②たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 38～50年

②無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「助成金収入」は、営業外費用の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「助成金収入」634千円、「その他」2,422千円は、「その他」3,057千円として組み替えております。

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「違約金」(前連結会計年度755千円)は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた4,104千円は、「違約金」755千円、「その他」3,348千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
給料及び手当	749,440千円	769,927千円
広告宣伝費	409,172千円	514,986千円
賞与引当金繰入額	81,484千円	58,692千円
貸倒引当金繰入額	228千円	1,266千円

※2 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
東京本社	求人サイト用ソフトウェア	ソフトウェア	4,768千円
名古屋地域	賃借事務所設備	建物、工具、器具及び備品	6,946千円
Mirac Company Limited	求人サイト用ソフトウェア等	ソフトウェア、工具、器具及び備品	2,483千円

当社グループは管理会計上区分している地域別及び商品別区分に基づき資産のグルーピングを行っております。その中で、求人サイトとして運営している「ベティ」、連結子会社のMirac Company Limitedが運営する求人サイトの各商品及び名古屋地域の賃借事務所の建物設備等の資産については、当初予定していた収益の獲得が不確実な状況のため、帳簿価額全額を減額し、当該減少価額を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、東京本社4,768千円（ソフトウェア4,768千円）、名古屋地域6,946千円（内、建物6,404千円、工具、器具及び備品542千円）、Mirac Company Limited2,483千円（内、工具、器具及び備品278千円、ソフトウェア2,205千円）であります。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	249千円	9,089千円
組替調整額	一千円	一千円
税効果調整前	249千円	9,089千円
税効果額	25千円	△2,724千円
その他有価証券評価差額金	274千円	6,364千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△600千円	△253千円
その他の包括利益合計	△326千円	6,111千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式(株)	33,637,249	—	700,000	32,937,249

(注) 取締役会決議による自己株式の消却による減少であります。

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式(株)	5,844,056	700,000	700,000	5,844,056

(注) 取締役会決議による自己株式の取得による増加及び自己株式の消却による減少であります。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月26日 定時株主総会	普通株式	250,138	9	平成28年2月29日	平成28年5月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額(千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	189,652	7	平成29年2月28日	平成29年5月26日

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式(株)	32,937,249	—	700,000	32,237,249

(注) 取締役会決議による自己株式の消却による減少であります。

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式(株)	5,844,056	700,001	700,000	5,844,057

(変動事由の概要)

増加数及び減少数の内訳は、次の通りであります。

取締役会決議による自己株式の取得による増加 700,000株
単元未満株式の買取請求による増加 1株
自己株式の消却による減少 700,000株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	189,652	7	平成29年2月28日	平成29年5月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額(千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年5月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	184,752	7	平成30年2月28日	平成30年5月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
現金及び預金勘定	3,849,810千円	4,009,583千円
現金及び現金同等物	3,849,810千円	4,009,583千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等を基本としております。また、資金調達につきましては、内部留保による調達を基本方針としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社与信管理規程に従い、相手先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。営業債務である未払金は、1年以内の支払期日であります。また、未払金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、資金計画と実績を月次で管理し、月中は適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、支払期日に合わせ、預金残高を管理することなどにより、流動性リスクを管理しております。

投資有価証券は投資事業組合への出資金であります。投資事業組合への出資金は投資事業組合の投資先の信用リスク及び為替リスクに晒されておりますが、定期的に財務内容を把握することにより管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照下さい。)

前連結会計年度(平成29年2月28日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	3,849,810	3,849,810	—
(2)売掛金	623,092	623,092	—
資産計	4,472,903	4,472,903	—
(1)未払金	455,272	455,272	—
負債計	455,272	455,272	—

当連結会計年度(平成30年2月28日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	4,009,583	4,009,583	—
(2)売掛金	590,206	590,206	—
資産計	4,599,789	4,599,789	—
(1)未払金	433,508	433,508	—
負債計	433,508	433,508	—

(注1)金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1)未払金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

区分	平成29年2月28日	平成30年2月28日
投資有価証券	87,746	82,930

投資有価証券は投資事業組合への出資金であります。投資事業組合への出資金は、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されるため、時価開示の対象とはしていません。

(注3)金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年2月28日)

(単位:千円)

	1年以内
(1)現金及び預金	3,849,810
(2)売掛金	623,092
資産計	4,472,903

当連結会計年度(平成30年2月28日)

(単位:千円)

	1年以内
(1)現金及び預金	4,009,583
(2)売掛金	590,206
資産計	4,599,789

(有価証券関係)

時価評価されていない有価証券

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社及び連結子会社は、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社の企業集団は、平成14年9月1日付けで従来の適格退職年金制度から確定拠出年金制度へ全面的に移行しております。

2 退職給付債務及びその内訳

該当事項はありません。

3 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
(1) 確定拠出年金掛金(千円)	19,816	31,355
(2) 退職給付費用(千円)	19,816	31,355

(ストック・オプション等関係)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	25,146千円	18,029千円
繰越欠損金	130,071千円	88,043千円
減価償却超過額	69千円	5,590千円
その他	64,219千円	61,898千円
繰延税金資産小計	219,508千円	173,562千円
評価性引当額	△145,950千円	△140,788千円
繰延税金資産合計	73,557千円	32,773千円
繰延税金負債(固定)との相殺	△630千円	△4,652千円
繰延税金資産の純額	72,926千円	28,121千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	1,927千円	4,652千円
繰延税金資産(固定)との相殺	△630千円	△4,652千円
繰延税金負債の純額	1,296千円	—千円

繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
流動資産—繰延税金資産	72,733千円	26,638千円
投資その他の資産—繰延税金資産	193千円	1,482千円
固定負債—繰延税金負債	1,296千円	—千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
法定実効税率	32.3%	30.2%
(調整)		
評価性引当額	△4.8%	△2.4%
交際費等永久に損金算入されない項目	0.2%	0.2%
住民税均等割等	0.5%	0.5%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.0%	—
適用実効税率との差異	—	0.6%
その他	0.1%	△0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.3%	29.0%

(資産除去債務関係)

資産除去債務の連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

当社グループは、本社及び営業拠点の不動産賃貸契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

なお、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「情報提供事業」及び「販促支援事業」の2つを報告セグメントとしております。

「情報提供事業」では、当社グループの主力商品である、求人情報誌『DOMO』の発行及び求人情報サイト『DOMO NET』の運営・販売、またその他に、主力商品で築いた顧客に対するSP広告の販売等から構成されています。

「販促支援事業」では、当社100%子会社である株式会社リンクが行うフリーペーパーの取次等により構成されています。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の売上高は、第三者間取引価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	情報提供	販促支援	計			
売上高						
外部顧客への売上高	4,459,951	967,448	5,427,399	5,427,399	—	5,427,399
セグメント間の内部売上高 又は振替高	245	47,226	47,471	47,471	△47,471	—
計	4,460,196	1,014,675	5,474,871	5,474,871	△47,471	5,427,399
セグメント利益	1,199,099	137,617	1,336,716	1,336,716	△666,671	670,044
セグメント資産	1,161,847	200,956	1,362,804	1,362,804	4,175,787	5,538,591
その他の項目						
減価償却費	37,701	5,184	42,885	42,885	18,517	61,403
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	57,516	37,776	95,293	95,293	1,429	96,722

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額△666,671千円は、セグメント間取引消去4,440千円及び全社費用△671,111千円
であります。

(2)セグメント資産の調整額は、主に現金及び預金、繰延税金資産及び報告セグメントに帰属しない本社建
物設備等であります。

(3)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社建物の設備投資額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	情報提供	販促支援	計			
売上高						
外部顧客への売上高	4,586,675	969,896	5,556,572	5,556,572	—	5,556,572
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	52,971	52,971	52,971	△52,971	—
計	4,586,675	1,022,867	5,609,543	5,609,543	△52,971	5,556,572
セグメント利益	1,040,510	143,087	1,183,598	1,183,598	△656,071	527,527
セグメント資産	1,125,552	189,867	1,315,419	1,315,419	4,260,920	5,576,340
その他の項目						
減価償却費	32,585	3,860	36,445	36,445	7,460	43,906
減損損失	14,198	—	14,198	14,198	—	14,198
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	17,997	6,282	24,279	24,279	4,400	28,679

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△656,071千円は、セグメント間取引消去4,440千円及び全社費用△660,511千円
であります。

(2) セグメント資産の調整額は、主に現金及び預金、繰延税金資産及び報告セグメントに帰属しない本社建
物設備等であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、ソフトウェアの購入によるものであります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を
省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありま
せん。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
1株当たり純資産額	177円55銭	183円49銭
1株当たり当期純利益	17円22銭	14円21銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	469,278	377,289
普通株式に係る親会社株主に 帰属する当期純利益 (千円)	469,278	377,289
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数 (千株)	27,242	26,534

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,443,881	2,798,520	4,249,469	5,556,572
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (千円)	139,092	276,007	452,393	529,393
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	110,701	202,370	327,466	377,289
1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	4.10	7.58	12.31	14.21

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額(円)	4.10	3.47	4.73	1.88

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 2月28日)	当事業年度 (平成30年 2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,073,606	3,166,480
売掛金	※1 504,385	※1 488,296
貯蔵品	2,675	3,550
前払費用	46,542	41,210
繰延税金資産	67,769	22,569
その他	※1 43,429	※1 117,996
貸倒引当金	△200	△200
流動資産合計	3,738,210	3,839,904
固定資産		
有形固定資産		
建物	152,142	147,070
構築物	433	390
工具、器具及び備品	9,524	5,408
土地	444,475	444,475
建設仮勘定	3,676	—
有形固定資産合計	610,251	597,344
無形固定資産		
ソフトウェア	53,572	28,055
その他	10,606	10,606
無形固定資産合計	64,178	38,662
投資その他の資産		
投資有価証券	87,746	82,930
関係会社株式	23,800	10,000
関係会社長期貸付金	※1 223,980	※1 153,314
破産更生債権等	583	1,035
長期前払費用	13,906	11,704
敷金及び保証金	55,400	49,685
繰延税金資産	—	1,419
貸倒引当金	△79,619	△105,522
投資その他の資産合計	325,798	204,566
固定資産合計	1,000,228	840,573
資産合計	4,738,438	4,680,477

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
負債の部		
流動負債		
未払金	※1 378,888	※1 357,708
未払費用	26,536	18,533
未払法人税等	49,655	67,760
前受金	※1 22,801	※1 25,407
預り金	6,781	11,196
賞与引当金	69,944	48,437
その他	6,416	18,610
流動負債合計	561,024	547,655
固定負債		
長期預り敷金	※1 10,000	※1 10,000
繰延税金負債	1,296	—
固定負債合計	11,296	10,000
負債合計	572,320	557,655
純資産の部		
株主資本		
資本金	455,997	455,997
資本剰余金		
資本準備金	540,425	540,425
資本剰余金合計	540,425	540,425
利益剰余金		
利益準備金	5,812	5,812
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	4,203,050	4,185,721
利益剰余金合計	4,208,862	4,191,533
自己株式	△1,043,669	△1,076,000
株主資本合計	4,161,615	4,111,956
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,502	10,866
評価・換算差額等合計	4,502	10,866
純資産合計	4,166,118	4,122,822
負債純資産合計	4,738,438	4,680,477

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月 28日)	当事業年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月 28日)
売上高	※1 4,174,263	※1 4,378,198
売上原価	※1 924,502	※1 1,104,063
売上総利益	3,249,760	3,274,134
販売費及び一般管理費	※1, ※2 2,627,051	※1, ※2 2,819,565
営業利益	622,709	454,569
営業外収益		
受取利息	※1 2,957	※1 2,975
受取手数料	※1 9,273	※1 9,250
受取賃貸料	※1 2,280	※1 2,280
投資有価証券売却益	—	6,319
投資事業組合運用益	—	11,525
その他	2,826	2,843
営業外収益合計	17,337	35,193
営業外費用		
自己株式取得費用	1,906	1,904
投資事業組合運用損	4,177	—
関係会社貸倒引当金繰入額	※3 79,036	※3 25,450
為替差損	173	1,236
その他	2,470	2,589
営業外費用合計	87,765	31,182
経常利益	552,281	458,580
特別損失		
減損損失	—	11,714
子会社株式評価損	—	13,800
特別損失合計	—	25,514
税引前当期純利益	552,281	433,065
法人税、住民税及び事業税	77,633	92,099
法人税等調整額	96,124	39,759
法人税等合計	173,758	131,859
当期純利益	378,522	301,206

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	第44期 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月 28日)			第45期 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月 28日)		
		金額(千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
I 労務費			166,432	18.0		196,972	17.8
II 経費							
1 印刷費		586,653			657,030		
2 その他		171,416	758,070	82.0	250,060	907,090	82.2
売上原価			924,502	100.0		1,104,063	100.0

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本								評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差 額金	評価・換 算差額等 合計	
		資本準備 金	資本剰余 金合計	利益準備 金	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計					
当期首残高	455,997	540,425	540,425	5,812	4,199,676	4,205,489	△1,005,875	4,196,036	4,227	4,227	4,200,264
当期変動額											
剰余金の配当	—	—	—	—	△250,138	△250,138	—	△250,138	—	—	△250,138
当期純利益	—	—	—	—	378,522	378,522	—	378,522	—	—	378,522
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△162,805	△162,805	—	—	△162,805
自己株式の消却	—	—	—	—	△125,010	△125,010	125,010	—	—	—	—
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	—	—	—	—	—	—	—	—	274	274	274
当期変動額合計	—	—	—	—	3,373	3,373	△37,794	△34,420	274	274	△34,146
当期末残高	455,997	540,425	540,425	5,812	4,203,050	4,208,862	△1,043,669	4,161,615	4,502	4,502	4,166,118

当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本								評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差 額金	評価・換 算差額等 合計	
		資本準備 金	資本剰余 金合計	利益準備 金	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計					
当期首残高	455,997	540,425	540,425	5,812	4,203,050	4,208,862	△1,043,669	4,161,615	4,502	4,502	4,166,118
当期変動額											
剰余金の配当	—	—	—	—	△189,652	△189,652	—	△189,652	—	—	△189,652
当期純利益	—	—	—	—	301,206	301,206	—	301,206	—	—	301,206
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△161,214	△161,214	—	—	△161,214
自己株式の消却	—	—	—	—	△128,883	△128,883	128,883	—	—	—	—
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	—	—	—	—	—	—	—	—	6,364	6,364	6,364
当期変動額合計	—	—	—	—	△17,328	△17,328	△32,330	△49,659	6,364	6,364	△43,295
当期末残高	455,997	540,425	540,425	5,812	4,185,721	4,191,533	△1,076,000	4,111,956	10,866	10,866	4,122,822

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、出資にかかわる投資事業組合については、持分相当額の損益を投資有価証券を増減する方法で投資事業組合運用損益として計上しております。また、投資事業組合が保有するその他有価証券の評価損益については、投資有価証券を増減する方法で純資産の部にその他有価証券評価差額金を計上しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 38～50年

工具、器具及び備品 3～15年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「為替差損」は、営業外費用の総額の100分の10を越えたため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた2,644千円は「為替差損」173千円、「その他」2,470千円として組替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
短期金銭債権	32,846千円	105,074千円
短期金銭債務	22,046千円	18,850千円
長期金銭債権	223,980千円	153,314千円
長期金銭債務	10,000千円	10,000千円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
売上高	85,270千円	140,536千円
売上原価	900千円	5,430千円
販売費及び一般管理費	46,954千円	53,071千円
営業取引以外の取引による取引高	13,524千円	13,490千円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
貸倒引当金繰入額	247千円	1,174千円
給料及び手当	566,968千円	585,213千円
賞与引当金繰入額	67,250千円	46,582千円
広告宣伝費	395,369千円	479,128千円
減価償却費	41,834千円	28,445千円
おおよその割合		
販売費	89.9%	91.9%
一般管理費	10.1%	8.1%

※3 関係会社貸倒引当金繰入額は当社子会社である(株)名古屋adMへの貸付金に対して、貸倒引当金を計上したものであります。

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

子会社株式(貸借対照表計上額23,800千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価は開示しておりません。

当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

子会社株式(貸借対照表計上額10,000千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価は開示しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産(流動)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
賞与引当金	21,130千円	14,632千円
繰越欠損金	37,223千円	—千円
その他	10,239千円	8,068千円
小計	68,593千円	22,701千円
評価性引当額	△823千円	△132千円
合計	67,769千円	22,569千円

繰延税金資産(固定)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
資産除去債務	2,119千円	3,582千円
減価償却超過額	7千円	5,569千円
貸倒引当金	23,930千円	31,695千円
その他	26,853千円	15,964千円
小計	52,910千円	56,812千円
評価性引当額	△52,279千円	△50,740千円
繰延税金負債(固定)との相殺	△630千円	△4,652千円
合計	—千円	1,419千円

繰延税金負債(固定)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
その他有価証券評価差額金	1,927千円	△4,652千円
小計	1,927千円	△4,652千円
繰延税金資産(固定)との相殺	△630千円	4,652千円
合計	1,296千円	—千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
法定実効税率	32.3%	30.2%
(調整)		
評価性引当額	△2.6%	△0.5%
交際費等永久に損金算入されない項目	0.3%	0.3%
住民税均等割等	0.4%	0.5%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.9%	—
その他	0.2%	△0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.5%	30.5%

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額 (千円)
有形固定資産						
建物	152,142	11,510	6,404 (6,404)	10,178	147,070	199,986
構築物	433	-	-	42	390	19,245
工具、器具及び 備品	9,524	390	552 (542)	3,953	5,408	117,335
土地	444,475	-	-	-	444,475	-
建設仮勘定	3,676	-	3,676	-	-	-
有形固定資産計	610,251	11,900	10,633 (6,946)	14,173	597,344	336,567
無形固定資産						
ソフトウェア	53,572	8,500	13,540 (4,768)	20,476	28,055	-
その他	10,606	-	-	-	10,606	-
無形固定資産計	64,178	8,500	13,540 (4,768)	20,476	38,662	-

(注) 1. 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

 建物 KidsDuo浜松佐鳴台開校に伴う設備 10,191千円
 ソフトウェア ワガシャdeDOMOサイト開発 6,810千円

2. 「当期減少額」欄の()は内数で、当期の減損損失計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	79,819	26,924	1,021	105,722
賞与引当金	69,944	48,437	69,944	48,437

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日 2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 電子公告先：当社ホームページ(URLは、 http://www.atimes.co.jp)
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書

事業年度 第44期（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）
平成29年5月26日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第44期（自平成28年3月1日 至平成29年2月28日）
平成29年5月26日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び四半期報告書の確認書

第45期第1四半期（自平成29年3月1日 至平成29年5月31日）
平成29年7月12日関東財務局長に提出

第45期第2四半期（自平成29年6月1日 至平成29年8月31日）
平成29年10月11日関東財務局長に提出

第45期第3四半期（自平成29年9月1日 至平成29年11月30日）
平成30年1月12日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書
平成29年5月30日関東財務局長に提出

(5) 自己株券買付状況報告書

平成29年6月1日、平成29年7月3日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年5月25日

株式会社アルバイトタイムス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早 稲 田 宏 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 崎 光 隆 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルバイトタイムスの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルバイトタイムス及び連結子会社の平成30年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社アルバイトタイムスの平成30年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社アルバイトタイムスが平成30年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年5月25日

株式会社アルバイトタイムス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トー マ ツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早 稲 田 宏 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 崎 光 隆 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルバイトタイムスの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの第45期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルバイトタイムスの平成30年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

